

保護者のみなさまへ

吹田市立千里第三小学校  
校長 上村 広行

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### ●国語《概要》

多くの項目(設問)で平均正答率は全国と比べ上回り、良好な結果でした。

- 1.「話すこと・聞くこと」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題で無解答率が高く、課題が見られました。
- 2.「読むこと」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題が見られました。
- 3.「書くこと」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。自分の考えが伝わるように、図表やグラフなどを用いて書き表す工夫をすることに課題が見られました。
- 4.「言語や言語文化に関する事項」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られました。
- 5.「情報の扱い方に関する事項」の領域では、平均正答率が全国値をやや下回りました。

#### ●国語科における今後の指導改善点について

正答率が全国(公立)をやや下回った唯一の問題が「原因と結果の関係について理解しているかどうか」をみる選択問題です。情報と情報との関係を理解する力を付けるために、文章全体の構成や展開を明確にしたり、ある事象がどのような原因によって起きたのかを把握したり、明らかにしたりする活動に取り組みます。

## ●算数《概要》

すべての項目(設問)で平均正答率は全国値をすべて上回り、良好な結果でした。

1. 「数と計算」では、平均正答率が全国値を上回っていました。数量関係に着目し、( )を用いた式や、加法と乗法の混同した式を場面と関連付けて読み取る問題では、少し課題が見られました。
2. 「図形」では、台形や正三角形を構成する要素などに関連付けて図形の構成の仕方を考察する問題が出題されました。正答率は全国を上回ったものの、半数以下の児童が正答できない設問もあり、課題が見られました。
3. 「変化と関係」では、平均正答率が全国値を上回りました。伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを、式や言葉を用いて説明する設問で課題が見られました。
4. 「データの活用」では、複数の棒グラフを読み取り、見出した違いを記述する設問が出題されました。正答率は、全国を上回ったものの、高い無回答率を示すなど課題が見られました。

## ●算数科における成果と今後の改善点について

数量の関係を考察して見出した事実を説明する設問や、論理的に考え、答えを導くまでの過程を説明する記述の問題で、課題が見られました。

本校では、これからも教科書での基礎基本の定着はもちろん、今後も解答を導くまでの過程の楽しさや大切さを学ぶことのできる課題設定や授業展開を行い、思考力・判断力・表現力の向上に努めた教材研究と学習指導を行っていきます。

## 2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 【学習環境・生活環境について】

- ・学習塾などでの勉強時間を含めた家庭学習時間は平日・土日ともに全国値を大きく上回った。
- ・「読書は好きですか」の問いに対しては全国値を大きく上回った。

### 【自己肯定感】

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対しては、全国値を上回った。
- ・「学校の先生は自分のよさを認めてくれていますか」という問いに対しては全国値を上回った。

### 【教科・学習について】

- ・「学校に行くのは楽しい」と回答する児童は全国値を上回った。
- ・「授業で ICT 機器をどの程度使用しましたか」などの ICT に関わる項目は全国値を大きく上回った。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対して、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値とほぼ同じであった。

- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の問いに対しては全国値を上回った。
- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の問いに対しては全国値を大きく上回った。
- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」の問いに対しては全国値を下回った。

### 3 今後の取り組み

本校の児童は、基礎基本の学力は身につけているものの、それらの知識を活用したり、自分の考えを記述したりする問題になると正答率が下がり、無回答率が高くなる傾向がみられました。

今年度は「子どもの学び合いを大切にした授業」をテーマに授業研究を進めています。本校の教育目標「ともに学び ともに育つ」にあるように、友だちとともに学ぶ中で考えを広げ、表現力を高められるよう指導を進めてまいります。

また、生活環境や学習習慣等の調査結果を踏まえ、学級活動や委員会活動、異学年交流等の子ども同士が関わり協力し合う機会を通し、他者への思いやりを育める場面を意識的に作っていきたいと考えています。

併せて、道徳の授業やいじめ予防授業での学びを学校生活の中で深める機会を積極的にとらえ、いじめを許さない心を育てていきたいと考えています。

今後も児童の自立と幅広い学習の機会をつくるため、ご協力をお願いいたします。